

ぴっころ

～子育て支援センターには楽しいことがいっぱい～



※揖斐川子育て支援センターは、子育て中のお父さん、お母さん、妊婦さん、おじいさん、おばあさんどなたでも利用できる場所です。気軽にお出かけください。

- ◇通信ピッコロを中旬に発行しています。
図書館・公民館・保健センター・役場・振興事務所などに置いてあります。
- ◇ホームページ
揖斐川町 <https://www.town.ibigawa.lg.jp>
揖斐幼稚園 <http://www.ibi-youchien.ed.jp>

揖斐川子育て支援センター

揖斐川町上南方 193 Tel.23-1136
開館日 月曜日～金曜日・第3土曜日
9:00～16:00

◎揖斐幼稚園の開放日

1月18日(水)
直接幼稚園へ申込みください。
Tel.22-6008 (当日可)

1月の活動予定

行事の申込みは、前月第3水曜日より実施日前日まで受付けています。(電話予約不可)

日	月	火	水	木	金	土
1 元旦	2	3	4	5	6	7
8	9 成人の日	10	11 ひよこ交流 教えてドクター	12	13 アップルキッズ	14
15	16	17 出前保育 清水公民館	18 さくらんぼ交流	19 いちご交流	20 アップルキッズ	21 開館日
22	23	24 子育てと仕事の両立をしたい方のためのハローワーク	25 りんご交流	26 アップルキッズ	27 お話ルーム 誕生会	28
29	30	31				

- ◎育児相談は毎日、子育て支援センターで直接受け付けています。
- ◎コロナ感染状況によっては、行事など中止になることがありますので、事前にお問い合わせください。

子育て支援センターは、子どもに関する(0～18歳未満)あらゆる相談窓口です。
一人で悩まないで気軽にご相談ください。



これからは子ども達の「おもしろそう」やってみたい「こころ」するとうなるのかな?」といった興味・関心や好奇心・探究心を育み、自ら取り組み、考え、学んでいくことができる環境を作っていきたいと思えます。



「木の実(ま)」「バーベキューのざいりようそつたよ」と、ままごとで盛り上がったたりして、どの子どももイメージを膨らませながら楽しんでいきます。子ども達は、既製の玩具では味わえない自然物の魅力に引き寄せられ、不揃いの面白さや温かさ、自分の思いで色々な物に変化できる楽しさなどを味わい、自分達で遊びを考えたり工夫したりしながら、さまざま発見や学びへとつながっていきます。

いび幼稚園は、播磨山の麓に建ち、近くには三輪神社があるなど自然豊かな環境に囲まれています。播磨山登りは散歩コースの一つで、子ども達は、ドングリや栗が何処に落ちていたのかをよく知っています。どんぐりあったよ」「ここにもあるよ」「ここからは、くりゾーンやよ」と年上児に教えてもらいながら、手作りのお散歩バッグの中身はあつという間に自然物でいっぱいになります。

いび幼稚園
「どんぐりみつけた」

揖斐川町は、住民の皆さんの子育てを応援しています。 ～子育て支援センターの紹介～

年齢別交流

～同じ空間、時間を共有できることで楽しさも倍増です！～

支援センターでは、年間を通して年齢ごとに交流を行っています。親子で楽しめる季節ごとの制作や手遊び、体操など、たくさんの笑顔やほんわかしたふれあいのなかで充実した時間が過ごせているように感じます。また、同じ年齢のお子さんということで子育て談義にもなり、同じ思いであることを知ることで安心したり、お子さんの成長を実感できる場にもなっています。そして子ども達にとっても友達とのかかわりでいろいろな刺激を受けながら少しずつ大きくなっています。

できたよ～
ペタペタしたよ！



子育てちゃんねる

～0. 1. 2歳児の子どもは周りの人から、 たくさんの言葉をかけられ自分の言葉を獲得していきます～

この時期の子どもは言葉の発達が著しい時です。個人差はありますが、0歳の喃語から始まり、意味のある言葉が増えていきます。周りの大人や他児とやりとりする心地よさを感じ、言葉を獲得していきます。子どもの言葉に込められた思いを肯定的に捉え、共感してあげましょう。子どもにとっての言語環境は、子どもに向けられる言葉だけではなく、周囲のやりとりなども含まれます。それを子どもが聞いていることを心に留めておきましょう。



- 0歳児・・・喃語や指さしなどで、周囲に働きかけます。その表現に丁寧に応えることは子どもの言葉の発達を促し、人と関わる土台を作ります。言葉だけでなく表情やしぐさからも相手の思いを感じ取っています。表情や向けるまなざし、話すテンポや声のトーンにも配慮することを大切にしましょう。
- 1歳児・・・意味のある言葉が増え、「ブーブ、あった」など二語文や「これ」などの指示語を使って表現するようになります。子どもの思いを受け止めることで、自分の気持ちが伝わる嬉しさや心地よさを感じる経験を積み重ねていきましょう。自己主張や否定的な言葉も多くなりますが、言葉にならない思いを丁寧に代弁することを心がけましょう。
- 2歳児・・・「パン、ちょうだい」「おそと、いく」などの二語文を話すようになり、自分の気持ちや状況を言葉で表現しようとしています。大人自身が、自分がうれしい、感動した、困ったなどの気持ちを丁寧に表現することを心がけると、子どもの気持ちに寄り添う時の語彙も増えていきます。

周りの大人は日々子どもにたくさんの言葉を発しています。自分の言葉に責任をもち、受け止める子どもの立場になって「どのような言葉がいいか」を考えながら向き合ってあげましょう。